



第百五十五號

(第十四卷)

昭和九年三月

編輯室より

前號より載せられてゐる荒勝博士の原子轉換に關する講演は、最近の物理學界を搖り動かしつゝある大問題を取り扱はれてあるので、讀者の特別な注意と熱讀が望ましい。勿論、斯うした論議は天文や數理化學方面にも非常に關係深いことであるのだから、物の原子や分子は永久性が認められなくなつて、天然は言ふに及ばず、人工的にも相互に變轉したり、消滅したりするのだし、例の、ヤカマシイ宇宙線等の問題と關連して、大宇宙の極大機構から極小機構までのあらゆる現象の再認識を要求してゐることなのである。

新城博士の歐洲旅行談を、簡單ながら頂けたのは幸であつた。又、前號から柴田氏の筆により南洋日食旅行の記事が我が紙面を賑はしつゝあるのは愉快である。山本會長の米國旅行記は今尚ほ半ばである。今後尚ほ三四回續く豫定である。

本誌が昨年十一月以來體裁を改めたので、一般讀者の範圍は著しく廣まりつゝある。しかし、言ふまでも無いことだが、此の編輯ぶりによつて、我が「天界」の傳統的權威が下りつゝあると思ふのは大誤解である。中央部に綴り込まれてある研究欄は毎月毎日の最新最高知識を紹介してゐるので、御覽の通り、最も讀みごたへのあるページである。

南洋の日食觀測は成功したらしい!! 邦家學術のため慶賀に堪えない!!

既に可成り前から實行してゐる通り、天界初號以來の内容について、いろんな題目の下に目次を作つてゐる。之れと共に、讀者は本誌創刊以來の號を全部大切に保存せられんことを望む。(η)